

一般質問

新館整備を巡る一連

の対応に疑問の声

(自民クラブ)

問

市長選挙を通して、現在の場所での新庁舎の整備を真っ向から否定し、11月28日には工事の一時中止が決定。それが突如、12月定例会初日の招集挨拶の中で工事再開が表明された。こうした市長の姿勢は、議会との対話をも否定しているものであり、議会への説明責任をどう考えているのか。

答

今回の市長選挙の最大のポイントは、民主的な市政の実現であり、その象徴的な問題が新庁舎の建設であった。

その中で、「建設を白紙に戻して現庁舎を活用する」、「建設を白紙に戻して別の場所に建設をする」、「結果として新館建設を継続する」という3つの選択肢のうち、どうするかは判断は市長に委ねていただいたと思っている。

新館建設工事の一時中断は、世論に基づいて工事続行の是非

を判断するための必要な措置であり、議会に対する説明責任については、12月定例会が公式な意味における議会とのやり取りの始まりと認識し、招集挨拶の中で新庁舎に関する重要な判断をまずもって説明をさせていた

だいた。工事の再開は、出来高補償や防災機能の遅れなど重大なリスクが認められたので、早急に判断することが必要となった。地域審議会合同会議でも、庁舎の建設に注文を付けるというのではなく、むしろ地域の融和を求める意見が大勢を占め、このことも判断を後押ししてくれた。中学校区別の説明会は、工事再開の判断が急がれたことから後回しになったが、今後、これまでの経緯を説明し、市民に理解を得たいと考えている。

新庁舎建設工事

市長の考えは？

(新生クラブ)

問

住民と協議して新庁舎の建設を見直すため、市長選挙当選翌日から工事を中断していたにもかかわらず、僅か22日間で工事再開命令が出された。この間の公的な議論・協議の場

は、地域審議会合同会議1回のみであったが、これだけでじゅうぶん民意をくみ上げられたと考えているか。

また、同会議で市民からの意見を理解した上で工事を再開したと言われたが、新庁舎建設については、前市長の下で提案され、議会の決議を経て業者と契約し、工事が進んでいた。これについて、地域審議会の意見と議会の議決のどちらの結論に重きを置くのか。更に、二代表制をどのように考えているのか。

答

新庁舎建設の見直しについては、「建設を白紙に戻して現庁舎を活用する」、「建設を白紙に戻して別の場所に建設



再開された新館建設工事

設をする」、「結果として新館建設を継続する」の3つの選択肢のうち、どうするかは判断を、市長選挙の中で委ねていただいたと思っている。本来であれば、市民などから意見を聞いて、時間をかけて検討し、議会で議論を進めていくべきであったかもしれないが、内容を精査し、市長として判断した。今後、市民に説明して理解を求めたいと考えており、順序が前後したことは申し訳なく思っている。

判断が急がれる状況の中、議会招集挨拶において工事再開を表明したが、今後は、議会と執行機関、二代表制を尊重して市政運営を行いたい。

公約破りではないのか？

新庁舎建設工事再開

(日本共産党西条市議団)

問

市長は、今回の市長選挙で、「現在地での新庁舎建設は、合併協定に反するものであり、これを容認しない」ということを公約したにもかかわらず、12月議会で中断している新庁舎建設工事を再開することを突如として表明したが、これは公約破りではないのか。この

公約を信じた有権者からは、驚きとともに怒りの声が上がっているが、どのように考えているのか。

また、地域審議会や議会に対し、中学校単位で市内10か所において住民説明会を開き、意見を聞いて判断するという方針が打ち出されていたにもかかわらず、一切開催しないで工事の再開を表明したが、住民や議会を軽んじているのではないのか。

答

新庁舎の建設については、一度中断して見直しを行うと申し上げてきた。市長就任後に一度中断し、財政的、あるいは災害防災関係のリスクや将来への見通しなどを詳細に検討してきたが、早急な工事の再開が必要と判断し、工事の再開を決定したものであり、公約破りではない。

当初は、住民説明会での意見も踏まえて判断することも考えていたが、その判断が急がれたものであり、見直しを進めることについて、説明、手続きが後回しになっていることは大変申し訳なく思っている。今後、住民に対し丁寧に説明をして理解を得ていきたい。